

特集2

復興と板倉

第6弾

仮設住宅の再利用

「棟貸ヴィレッジ かわべり棟」

「日本民家集落博物館 事務所棟」

「上ノ室の板倉」早川邸離れ」

連載

生き続ける板倉「土水庵」

山と町をつなぐ仕事「地球のしごと大学」

世界板倉遺産「四国の板倉」

特集1

保育と板倉

山里学童クラブ

2020
06

ITAKURA
HOUSE

いたくら

保育と板倉

子どもが毎日過ごす「第二の家」
だからこそよりよい環境を

「山里学童クラブ」(愛知県名古屋市)

愛知県産のスギとヒノキでできた、山里学童クラブ。1階は主に低学年の子どもが放課後の時間を過ごす。

愛知県名古屋市の学童保育の多くはプレハブの建物で行われています。しかし、毎日長く過ごす場でありながら、温熱環境の悪さに加え、音の問題も悩みの種でした。そこで保護者が、板倉の学童保育の建設に立ち上がりました。気持ちよく健康に過ごせる安心安全な空間を。健やかな成長を願った板倉の学童保育が完成し、その輪は広がりを見せています。

保育と板倉

- 01 子どもが毎日過ごす「第二の家」
だからこそよりよい環境を「山里学童クラブ」(愛知県名古屋市)

復興と板倉

第6弾——仮設住宅の再利用

- 9 仮設時の仕様をほぼそのままに宿泊施設へ
「一棟貸ヴィレッチ かわべり棟」(福島県・三島町)
- 12 地震で被害を受けた事務所棟を板倉で再建
「日本民家集落博物館事務所棟」(大阪府豊中市)
- 14 3戸1棟長屋の、界壁を取り払って開放的な住まいに
「上ノ室の板倉」(茨城県つくば市)
- 18 セルフビルドでもスピーディに建設
「早川邸離れ」(長野県諏訪郡)

板倉自由自在 Renovation of ITAKURA

- 20 地震で半壊した古民家ショップを、板倉構法で再生
「ナチュラル＆ハーモニック ビュアリィ」(熊本県熊本市)
- 22 板倉構法で広げる土蔵修復の可能性。「小沢蔵」(熊本県熊本市)

生き続ける板倉 第5回

- 25 天保の板倉を移築。農を楽しむ終の棲家に
「土水庵」(山梨県北杜市)

板倉を彩る暮らしのコラム 屋根の上の大自然——茅葺き屋根の生物多様性

- 34 板倉に住む 第3回 大自然の森の中で生活しているような家

山と町をつなぐ仕事

- 36 これからの地域をより豊かにするために。
自伐型林業の考え方とスキルをまなぶ
地球のしごと大学 自伐型林業学部

世界板倉遺産 第5回

- 43 四国の板倉

- 49 板倉構法による準耐火構造壁の開発 安井 昇
53 準耐火構造仕様に対する予備実験 河合直人

- 56 板倉の家は私達がつくります



「山里学童クラブ」子ども達が安全に健康に過ごせる学童保育にしたい。保護者の英断と尽力によって可能となった板倉の学童保育。採用にあたっては、快適性はもちろん増改築や移築が容易な板倉構造が評価された。



「地球のしごと大学」自伐型林業学部で伐採した木材を用いて、伝統構法建築学部で建てた板倉小屋。伐採と伝統木造の基礎的な考え方とスキルがまなべる講座を通して、地域で多様に働ける人材の育成を目指す。

写真2点／齋藤さだむ

日本で初めての、板倉構法の学童保育。
移築可能で居住性の良い建物が、
これからの保育施設を変える可能性を開く

2階は高学年の子ども達のスペース。
一部に天井板を張り、小屋裏を収納と
して使うように想定している。



近くの山を守る活動との連携で、
100%県産材を使った板倉が実現。
次に目指すのは、子ども達のための木の空間づくり



右頁
上右／玄関部分。外部に漏れる音を防ぐため、開口部には真空ガラス入りの樹脂サッシを使用した。真空ガラスは日本板硝子ビルディングプロダクツ（株）からの寄贈品だ。
上左／室内の柱は、子ども達の安全を考慮して円柱とした。丸い方が目通りも良いとのこと。子ども達は抱きついて遊ぶ。
下右／取材日は底冷えのする12月中旬。スギの床材を踏むと、床暖房が入っているように感じるほど、足触りが暖かだった。
下左／指導員室から1階を見る。壁の手前が県からの払い下げを受けた在来工法、壁の向こうが板倉の建物。

上／在来工法の建物の2階は読書スペース。低い天井は読書にうってつけた。子ども達は、落ち着いて本が読めると言っている。
左／ランドセルなど私物入れ用の棚は、板倉用の板を使用し、保護者が設計した山里オリジナル。



板倉造りの山里学童クラブは2019年8月に竣工した。この施設ができる前、子ども達は平屋のプレハブで過ごしていた。近年は共働き世帯の増加によって、山里学童クラブに通う児童数は増え続けている。施設の定員を超えたところから、建て替え計画は始まった。

名古屋市の学童保育のしくみは独特だ。市内の学童保育の多くは、保護者が運営を担っている。地域役職者と保護者による運営委員会が保育料の徴収や指導員の雇用、さらには施設の確保まで行う。施設をつくる際には土地を探し、決まれば市から建物を無償で貸与される。だが、施設を建てる土地は圧倒的に借地が多い。市から提供される建物は、必然的に借地権が切れたらすぐに撤去できる鉄骨造平屋のプレハブとなる。

しかし、プレハブの学童保育の居住環境は厳しい。夏はエアコンが効かず、冬は底冷えする。さらに、子ども達の声が耳に響く。難聴になる指導員もいるほどだ。市からの補助が受けられるのは規定のプレハブ平屋だけ。同じプレハブでも2階建ては対象外。木を使う場合は、プレハブ平屋の内装改修を保護者の力で行わなければならない。それでも山里学童クラブの保護者達は、子ども達の居心地を考え、木造の施設を選択。自費による

建て替えを決意し、何度も話し合いを重ねた。その過程で、さまざまな意見や不安が出た。木造の費用はいくらになるのか、誰に頼めばいいのか、耐震性や耐久性はどうか、資金の返済は可能なのか……。このプロジェクトのリーダーを務めた金知聖さんは振り返る。「アンケートなどで不安要素を聞き取りました。それをリストにして、市に相談するなどしてすべて答えを出しました」。プロジェクトメンバーの話し合いは、しばしば深夜に及んだという。

金さん達が板倉構法を知ったのは、学童保育の指導員を通してのことだ。岡崎市に、森と町を結び付ける活動をしている額田木の駅プロジェクトという団体がある。その常任理事で、日本板倉建築協会の会員でもある鈴木建一さんは本業が運送会社の役員だ。労使の研究会に参加した際に、学童保育の労働組合の委員長と話す機会があった。「板倉のパンフレットを見せた途端に、『これだ！ 長年の夢がかなうかもしれない』と眼を輝かせたんです」。委員長が着目したのは、解体して移築可能であること。「居住性能が良く、しかも借地権が切れたら他に持って行けると喜ばれました。いわきの応急仮設住宅のようですね」

山里学童クラブを設計したのは、鈴木

さんと共に活動する東海林修さんだ。金さんと初めて会ったのは2018年の8月。東海林さんは毎年県からの依頼を受け、県産材利用促進PRを目的とした展示用の木造フレームを設計している。そのフレームを県から払い下げてもらうように動いた。山里学童クラブはこの9坪の建物を活用し、L字型に15坪の板倉をつなげる設計とした。普段、子ども達が過ごすのは板倉の部分。1階が低学年、2階が高学年と分けている。板倉は9坪の木造をすくい込む形で建てているので、もともと階高がある。さらに、2階は構造材を表した勾配天井とした。東海林さんは、小屋裏の利用を織り込んで設計したという。「学童保育は物が大量に増えます。それを収納する場所が現状では不十分なので、将来は一部に天井板を張って小屋裏収納とるように考えました」。

改修が自在にできることも板倉のメリットだと話す。今回は、額田木の駅プロジェクトが関わり、構造材から板材まですべて愛知県産材を活用した。板の実加工は静岡市の（株）ケンセイHomeに学び、地元の製材会社・小原木材（株）で専用の刃物を用意した。初めての打ち合わせから竣工まで、木材の手配も含めて、わずか1年という離れ業である。

新しい学童保育で子ども達はどのような生活を送っているのか、指導員の松尾拓麻さんに聞いた。「印象的だったのは、子

ども達が入ってすぐに、『なんか気持ちいいね』と言いながら寝転がり始めたことです。僕自身も働きやすくなりました。プレハブの時は、子ども達の声で聞こえないから、電話をする度に外に出ていました。今は隣の人と話ができます。それに、調湿効果のおかげで雨の日もじめじめしないので、皆イライラしなくなりました」。

この板倉の学童保育を機に、子ども達のための空間に木を使うことを目指す森と子ども達の未来会議という任意団体が設立され、鈴木さんが発起人となった。板倉でなくてもかまわない、木造が難しければ内装を木質にする。できることから広げて、子ども達が木に触れて育つ空間を増やしたいという趣旨だ。対象とするエリアも全国に広げた。「山里学童クラブという一つの形ができたことで、行政が関心を持ったり、他県からの視察があったりしました。ムーブメントが起きれば」と、東海林さんは言う。名古屋市内では、山里に続いて2つめの板倉の学童保育が2月に着工した。緑区のあおぞら学童保育クラブで6月末に完成予定だ。学童保育に通う子ども達は、学校よりも長い時間を学童保育で過ごす。借地の原状復帰という大人たちの都合と、子ども達にとつての良好な環境は相反することなく実現できることを、板倉の施設が証明した。

プレハブから板倉へ。

学童保育を自主運営する保護者達の、行政の補助に頼らない英断



下／塗装や防蟻処理のホウ酸塗り、デッキづくりなど、保護者がDIYで参加した。町内会のようなコミュニティができています。左／下屋の梁に保護塗料を塗る金知聖さん。今回のプロジェクトで、保護者のリーダーを務めた。



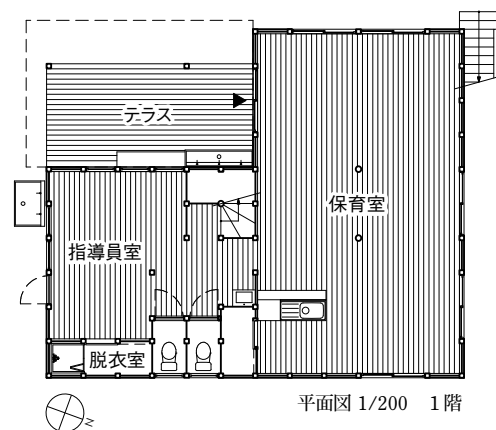
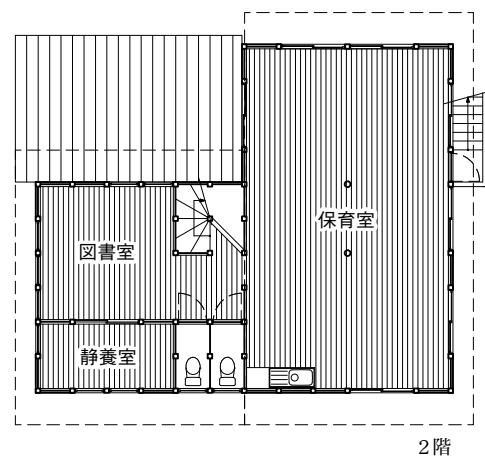
上／設計者の東海林修さん（右）と額田木の駅プロジェクト常任理事の鈴木建一さんの連携によって、愛知県産材100%の板倉ができた。左／9坪の在来木造の1階にある指導員室。プレハブに比べて音の反響が柔らくなり、職員のストレスも軽減されたという。

プロトタイプが建てられた、只見川を見下ろす高台に里帰りを果たした、板倉の仮設住宅。

2011年の東日本大震災で福島県いわき市に建設された板倉の仮設住宅が2018年3月で役目を終えました。元々、再利用を前提に設計・施工されていたそれら仮設住宅は、解体後さまざまなところに引き取られ、再利用されています。どのような板倉に生まれ変わったのか、事例4件を紹介します。

特集2

復興と板倉 第6弾 仮設住宅の再利用



DATA

「山里学童クラブ」
所在地／愛知県名古屋市
構造・規模／木造2階建て
敷地面積／688.92㎡
建築面積／97.32㎡
延床面積／169.49㎡
設計／東海林建築設計事務所
施工／株式会社安井工務店
竣工／2019年8月
≫主な材
柱・梁／ヒノキ・スギ（愛知県産材）
板材／スギ（愛知県産材）
断熱材／グラスウール、スタイロフォーム
外部建具／樹脂サッシ
≫主な仕上げ
屋根／ガルバリウム鋼板縦ハゼ葺き
外壁／板倉棟・スギ板 厚12mm
既設棟・ガルバリウム鋼板リブ
天井／スギ本実板 厚30mm

内壁／板倉棟・スギ落し込み板 厚30mm
既設棟・P.B下地クロス仕上、一部
スギパネル仕上げ
床／スギ本実 厚15mm
≫主な設備
冷暖房／エアコン
給湯／ガス
≫総工費：2000万円

CONTACT INFORMATION

東海林建築設計事務所
愛知県春日井市高座町1930-78
tel.0568-37-1599
<http://www.tokairin.jp>
大宝運輸株式会社
「森と子ども 未来会議」—学童保育 板倉の家—
愛知県名古屋市中区金山5-3-17
tel.052-871-8274
<http://www.taiho-gh.com>

上／黒いガルバリウム鋼板の外壁が在来工法、木の外壁が板倉。ふたつの建物をL字型につなげた。
下右／道路側から見た板倉の部分。周囲は名古屋市でも人気の高い住宅街。板倉の学童保育は、町の景観に融け込んでいる。
下左／敷地の境界に塀はなく、内外の境はこの門柱だけ。オープンなあり方は、町ぐるみで子育てする意識が育つ可能性を感じさせる。